

令和6年度 第1回瀬戸内市地域公共交通会議 会議録要旨

開催日時：令和6年6月26日（水）13時30分～15時15分

開催場所：瀬戸内市役所 2階 大会議室

出席委員：大東会長（ノートルダム清心女子大学 人間生活学部）

三浦副会長（瀬戸内市副市長）

平本委員【代理：田井中氏】（両備ホールディングス（株））

河田委員（東備バス（株））

坂本委員【代理：重田氏】（（有）ネイチャーワールド自動車）

尾崎委員（（有）ツルヤタクシー）

福崎委員（瀬戸内市商工会）

永田委員（瀬戸内市観光協会）

中尾委員（瀬戸内市老人クラブ連合会）

川崎委員（瀬戸内市PTA連合会）

角房委員（生活交通網をつくる会）

栃折委員【代理：玉置氏】（西日本旅客鉄道(株)中国統括本部岡山支社）

吉田委員（中国運輸局岡山運輸支局）

國廣委員（岡山県県民生活部県民生活交通課）

國光委員【代理：河上氏】（備前市市民生活部交通政策課）

藤原委員【代理：中山氏】（瀬戸内警察署）

出席委員 16名

委任状提出委員 3名

事務局：総合政策部 平井（部長）

企画振興課 服部（課長）、鈴木（主事）、高原（主事）

1. 開会

2. 会長あいさつ

- ・ 中型バス車両で運行する 2 路線の利用について、両備バスが運行していた時期と比較すると「虫明・長島愛生園」は約 1.9 倍の増加率、「牛窓中央線」は約 4.1 倍の増加率となっている。
- ・ 運賃改定、フリー乗車定期券の導入、ダイヤの調整に加えてバスロケーションシステムの導入といった利便性の向上も利用者増加に寄与していると考えられる。
- ・ 公共交通事業をよりよくしていくためにも、皆様のお立場からご発言をいただきたい。

3. 報告事項

報告事項 1 「市営バス事業について」を事務局から説明

(1) 利用者数の推移

- ① 「10 人乗りワゴン車路線」の年度別利用者数の推移（平成 29 年度～令和 5 年度）
- ② 「虫明・長島愛生園線」の月別利用者数（令和 4 年 4 月～令和 6 年 3 月）
- ③ 「牛窓中央線」の月別利用者数（令和 4 年 10 月～令和 6 年 3 月）
- ④ 1 便当たりの利用者数（令和 3 年度～令和 5 年度）

(2) フリー乗車定期券の年代別申込者数（令和 4 年 10 月～令和 6 年 3 月）

(3) バスロケーションシステム「バス予報」の利用状況について

(4) 牛窓支所駐輪場増設事業について

(5) 市営バスの運行経費（令和 5 年度）

【質疑・意見等】

- ・ 「バス予報」（バスロケーションシステム）は便利だが、「バス予報」という言葉で運用していることを知らなかった。インターネットで「瀬戸内市営バス」と検索してもページが見つからない。瀬戸内市営バスのホームページに「バス予報」のページをリンクさせてほしい。

→皆さんが使いやすくなるようホームページを改善したい。

- ・ 定員超過タクシーの金額が約 22 万円となっている。1 回のタクシー代を 2000 円とすると、3 日に 1 度定員超過していることになるが、この状況をどう考えているか。

→定員超過タクシーの利用金額が増えているということは市営バスの利用者が多いということ。市営バスの利用状況についてバスロケーションシステムを活用して集計するなど分析を行っていく。また、金銭面を考慮すると、バスの増便や、車両の大型化などと比較して安価に収まっているため、当面はこの仕組みを続けていきたい。

- ・ 定員超過タクシーは利用者が希望する場所まで運んでくれるのか、それとも本来降車予定だったバスの停留所までなのか。

→利用者が降車予定だった停留所までである。

報告事項２ 「地域内交通について」を事務局から説明

（１）タクシー活用事業

（２）前島地域内交通実証事業

【質疑・意見等】

- ・タクシー活用事業の利用実績割合が担当課３課とも約半数にとどまっている。余った過年度のタクシー券はどうしているのか。
→年度内が有効期間であるため、次年度は使用できない。また、過年度のタクシー券は次年度の申請時に返却いただいている。
- ・タクシー活用事業には多額の予算をとっているが、利用実績が少なく予算が余った場合はどうするのか。
→予算については、過去の利用実績を元に必要な額を確保しており、実際に使った分だけをお支払いしている。
- ・前島の人口は何人か。減少傾向にあるのか。
→正確な数字は持ち合わせていないが、現在 120 人弱で、減少傾向にある。

報告事項３ 「ＪＲ赤穂線の利用促進について」を事務局から説明

【質疑・意見等】

- ・ＪＲの利用者数に関して、コロナ禍の時と比較して利用状況は改善しているか。
→区間によって数字が異なる。昨年度実績は集計中だが、東岡山から長船間は、2022 年度は 9129 名、コロナ禍の 2020 年度は 8871 人であり、少し改善が見られたと考えている。ただしコロナ禍前の 2019 年度は、1 万 771 名で、利用者が完全に戻っているわけではないが、利用促進の効果もあり、少しずつ改善していると考えている。
- ・ＪＲ赤穂線は赤字路線か。
→具体的な数字は回答しかねるが、厳しい状況にある。

報告事項４ 「公共交通に関するアンケートの結果について」を事務局から説明

【質疑・意見等】

- ・アンケート結果のうち、市営バスの満足度で「どちらとも言えない」と回答している人は、バスを利用したことがない人だろう。市のＰＲが足りないのではないかな。また、アンケートの問い方をもう少し考えてはどうか。
→現在、自家用車を利用されている方などが、公共交通に意識を向けるようなＰＲの方法をしっかりと考えたい。アンケートの問い方は次回以降改善していく。
- ・タクシー券は便利だと思うが、利用率が低い理由はなぜか。
→利用の仕方は人それぞれで、交付枚数をすべて使い切る人もいれば、全く使わない方も

いる。タクシー券の用途は指定しておらず、総合的に集計した結果、この利用率に落ちているという認識である。

- ・牛窓中央線は朝と夕方の通勤・通学時間帯の利用は多いが、昼間は少ない。昼間の利用者を増やす方法はないか。

→昼間の利用者が少ない傾向は集計にも表れている。ただ、学生のテスト期間中などは、昼間の利用ニーズが高くなる時期もある。様々な意見を聞きながら調整していく。

- ・便利なはずの公共交通を利用する人が少ない理由をしっかりと分析してはどうか。

→市営バスに関して言うと、運転免許を保有している人が多いからではないかと考える。

10人乗りワゴン車で運行する路線は、公共交通不便地域にお住まいの主に高齢者の方が買い物や病院に行けるようにするために運行を始めた。今となつては、通勤・通学に利用される中型バス路線を導入した路線もあり、少し役割が違う部分はある。ただ、市の周知不足も課題であると考えており、さらなる周知を図っていく。

- ・市営バスの利用促進について、子どもや高齢者など乗り方が分かっていない人もいないか。

→市営バスを利用する機会をつくることは大切であると考えている。今後こういった取組ができるか検討していく。

- ・タクシー助成事業は3課で実施しているが、3課で情報共有はできているのか。

→年に数回、課題等の共有を行っている。

4. 協議事項

協議事項1 「瀬戸内市地域公共交通計画の一部改正について」 を事務局から説明

【質疑・意見等】

- ・行政負担額について、令和元年度と令和5年度の実績で大きな差があるがその理由は。

→高齢福祉タクシー助成事業の開始や市営バスの路線拡充が大きな要因である。また、人件費の高騰や燃料代の高騰も影響していると考えられる。

- ・両備バス「牛窓（神崎・南回り）西大寺線」の目標値は瀬戸内市路線分だけの人数ではないと考えるが。

→細かい地域の内訳を割り出すことは困難であり、当初の計画でも岡山市路線分も含めた数値にしているため、今回も同様にさせていただきたい。

【合意の確認】

- ・異議なし。事務局は必要な手続きを進めること。

協議事項２ 「地域間幹線系統補助の認定申請について」を事務局から説明

【質疑・意見等】

特になし

【合意の確認】

- ・異議なし。事務局は必要な手続きを進めること。

5. その他

- ・両備ホールディングス株式会社、東備バス株式会社の統合について（東備バス河田委員から説明）
- ・都市計画の進捗状況について（瀬戸内市企画振興課から説明）

6. 閉会

- ・公共交通の利用促進に向けて様々な取り組みを進めているが、市民の要望は多様であり、満足度が100%とはなっていない。引き続き利用促進に努めていく。
- ・都市計画の関係も含め、公共交通が担う役割はますます大きくなっていく。関係のみなさんと情報共有をしっかりと行いながら、ますますの利便性向上に努めていきたい。ご協力をお願いしたい。

以上